

まちの歴史、文化、そして
そこに織りなす人々の想いをつなぐ、
ある家族の物語。

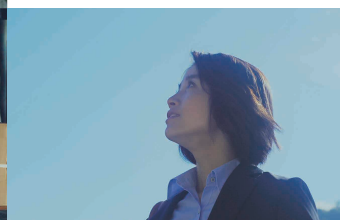


山口県南東部にあるまち、下松市——
かつて宿場町として栄えた古い町並みや賑やかな商業ゾーンと豊かな自然、そして新幹線を代表するものづくりの企業が共存しています。

これまで下松市は「映画」による魅力発信に取り組んできましたが、市制施行80周年を記念し、満を持して製作されたのが「くだまつの三姉妹」です。

日本の三大奇祭のひとつである稲穂祭「きつねの嫁入り」など、下松市に暮らす三姉妹とその家族の姿を通して見えてくる人々が織りなしてきた文化や人情を、過去から現在、そして未来へとつなぐ感動的な物語。

出演は、主演映画「見栄を張る」の



演技が高く評価された久保陽香、CM、ドラマで大活躍の萬歳光恵、下松映画「10ミニッツ」で鮮烈な演技を披露した地元の高校生・村田結佳が三姉妹を演じ、期待の若手俳優・守谷周人、人気作家でもあるドラマ「3年B組金八先生」等の室積光が脇を固めます。

監督・編集は、抒情的な映像の能手として知られる長澤雅彦。

映画「夜のピクニック」ドラマ「なぞの転校生」など多くの名作を発表し、徳山大学教授として映像による地域発展に尽力。下松映画は「恋」「10ミニッツ」「大城湯けむり狂騒曲」に続いて4本目。その集大成として注目を集めています。

Story

古い神社仏閣が立ち並ぶ、下松市の花岡地区で老舗の日本茶販売店を営む松下家。母亡きあと、店主の亮造を支える長女・冬子、東京の広告代理店で働く次女・夏美、高校生の三女・春菜。花岡地区の伝統行事・稲穂祭「きつねの嫁入り」を前にしたある日、稲穂祭の世話役でもあった亮造が倒れる。そんな時、夏美は上司から下松の魅力を発信するイベントを現地を進めるよう依頼される。久しぶりに揃う三姉妹だったが、松下家には1年前、亮造と衝突して家を飛び出した長男、秋男がいた——。

くだまつの三姉妹

監督：長澤雅彦

1965年秋田県生まれ。早稲田大学卒。
岩井俊二監督作品『LoveLetter』（95）『PICNIC』（96）でプロデューサーを務め、篠原哲雄監督作品『はつ恋』（00）でオリジナル脚本を執筆したのち、『ココニイルコト』（01）で映画監督デビュー。同作でヨコハマ映画祭新人監督賞など数々の賞を受賞。その後、『13階段』（03）、『夜のピクニック』（06）、『天国はまだ遠く』（08）、『遠くでずっとそばにいる』（13）、『恋』（14）など、話題作を次々と監督。2014年はテレビ東京系のドラマ『なぞの転校生』全話を監督し、『週刊文春』誌で「今季最高のドラマ」と絶賛されるなど話題を呼んだ。現在も長編、短編、CMと多方面で活躍。

